

授業科目の区分等：基礎教育科目 社会力の養成

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	必修
担当教員			
菅原 亮芳			
C (商学部)	L (基礎科目)	BS (社会人基礎)	105 (基礎・入門科目)

授業のねらい (概要)	「学びの技法」は基礎教育科目。以下の観点から自律的学習態度を養成する。①論理的文章作成、②資料探索、③テーマの分析、④学び方を学ぶ(議論の仕方・研究計画書の書き方等)など生涯学習の基盤となるコンピテンシーを育成することをねらいとする。
授業計画	<p>第1回 【遠隔】はじめに一講義のねらい、学習の進め方、評価の基準について—大学とは 予習 (時間) : シラバスの熟読 (30) 復習 (時間) : 本科目の内容の確認 (30)</p> <p>第2回 【遠隔】学ぶとは/小論文を書きながら 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第3回 【遠隔】研究とは/論文・レポート作成と資料探索の仕方について (1) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第4回 【遠隔】反論とは (1) /反論の型を習得しよう 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第5回 論文・レポート作成と資料探索の仕方について (2) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第6回 反論とは (2) 議論の仕方について (1) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第7回 議論とその仕方について (1) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第8回 議論とその仕方について (2) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第9回 【課題】市川房枝と女性と平等を考える (1) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第10回 市川房枝と女性と平等を考える (2) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第11回 【課題】斎藤隆夫の勇気とリーダーシップを考える (1) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第12回 斎藤隆夫の勇気とリーダーシップを考える (2) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第13回 【課題】洪沢栄一と政治と商学を考える (1) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第14回 洪沢栄一と政治と商学を考える (2) 予習 (時間) : 配付資料の熟読と理解 (120) 復習 (時間) : 学習内容の確認と表現 (120)</p> <p>第15回 これまでの授業のまとめ 予習 (時間) : 総復習 (60) 復習 (時間) : レポートの作成 (210)</p>
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	<p>商学部 3. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢</p> <p>【身に付くスキル】 生涯学習力・表現力</p>
到達目標	<p>(1) 各人物の経歴を把握し、その概要を理解し、表現する。 (2) その人物は生きてゆく上で、何を課題としていたかを理解し、表現する。 (3) その人物が、危機的状況にであったとき何を選択したかその選択は正しかったのかについて想像し、自分なりの考えを持つことができる。 (4) 自分なりに、意欲と志を軸にし「生きる力・生き抜く力」と「学んだ力・学ぶ力」とを結合 (市川伸一、寺崎昌男の言) する学びとは何かを考え、表現できる。 (5) 「人類の幸福・福祉とは何かを考える能力と素養」(林一の言)を培う上で、小さな論文や議論や反論を、対話しながら表現し、深く学ぶことの意味を考えることができる。</p>
課題や小テスト等のフィードバック	提出課題に必要なに応じて適宜手直しし指導助言し返却することもある。

の方法	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には講義形式を中心とするが、テーマにおいてはグループ学習などを導入する場合もある。</li> <li>・プリント教材を多く用いるので当該科目独自のファイルを作成すること。</li> </ul>
成績評価の方法・基準	①最終レポート（定期試験として）60%、②レポート課題30%、③学修意欲10%
教科書	反論の技術・香西秀信・明治図書・1936円／小論文これだけ人文・情報・教育・樋口裕一・東洋経済新報社・1100円
参考書・教材	
備考	<p>2020年度は、8、11、13回を課題研究として学修する。</p> <p>講義科目 第9回「市川房枝と女性と平等を考える〈1〉」、第11回「斉藤隆夫の勇気とリーダーシップを考える〈1〉」、第13回「渋沢栄一と政治と商学を考える〈1〉」につき具体的なテーマを設定し、資料を調べて、文章を作成し、レポート形式で提出すること。800～1200字程度をめどとする。但し第11回と第13回の課題研究では各人物の履歴と彼等が抱いていた人生の課題については必ず項目を設定して文章化すること。第8、11、13回、それぞれは全体で330分の学修を想定している。</p> <p>「定期試験」は「最終レポート」である。実施方法の詳細と評価規準は第1回で概要を授業等で告知する。</p>
教員との連絡方法	オフィスアワー